

インターロッキングブロック舗装 Technical Report － 材料編1 － (インターロッキングブロック(その1))

Vol.3

1. インターロッキングブロックの形状および寸法

(1) 平面形状

インターロッキングブロック(以下、IL ブロック)の平面形状には、長方形、正方形、多角形などがあります。ただし、近年では多角形の IL ブロックを製造するメーカーはほとんどない現状があります。これは、施主やデザイナーの嗜好や日本人の矩形を美とする文化が背景にあると言われています。

(2) 辺の形状

IL ブロックの辺の形状には、ストレート型(写真1)と波形型(写真2)があります。ただし、近年では波形型の IL ブロックを製造するメーカーはほとんどない現状があります。これは、平面形状と同様に、施主やデザイナーの嗜好や日本人の矩形を美とする文化が背景にあると言われています。



写真1 ストレート型 IL ブロックの施工例



写真2 波形型 IL ブロックの施工例

(3)厚さ

IL ブロックの厚さは、60mmと80mmが一般的です。歩行者系道路(歩道・自転車道など)には60mmを車道には80mmを使用します。ただし、産業ヤードなどの重荷重交通には100mmが使われることもあります。

(4)IL ブロックのタイプ

IL ブロックはセグメンタルタイプとフラッグタイプに分類されます。セグメンタルタイプは、歩行者系道路にも車道にも使うことができます。フラッグタイプは原則として、歩行者系道路にのみ使うことができます。

セグメンタルタイプとフラッグタイプの境界は、縦300mm×横300mmの形状(平板タイプと言われている形状)です。これよりも小さい形状の IL ブロックはセグメンタルタイプ、これよりも大きい形状はフラッグタイプに分類されます。

なお、縦300mm×横300mm×厚さ80mmはセグメンタルタイプに、縦300mm×横300mm×厚さ60mmはフラッグタイプに分類されます。詳しい分類方法は以下の通りです。

① セグメンタルタイプ

(1)式、(2)式に当てはまる IL ブロックをセグメンタルタイプとする。

$$\frac{\text{IL ブロックの長辺}}{\text{IL ブロックの厚さ}} \leq 4.0 \quad \dots(1)$$

$$\frac{\text{IL ブロックの側面積の和}}{\text{IL ブロックの上面積}} \geq 1.0 \quad \dots(2)$$

ただし、短辺 \geq 50mm、厚さ \leq 120mm

② フラッグタイプ

(3)式に当てはまる IL ブロックをフラッグタイプとする。

$$1.0 > \frac{\text{IL ブロックの側面積の和}}{\text{IL ブロックの上面積}} \leq 0.65 \quad \dots(3)$$

ただし、短辺 \geq 50mm、厚さ \leq 80mm

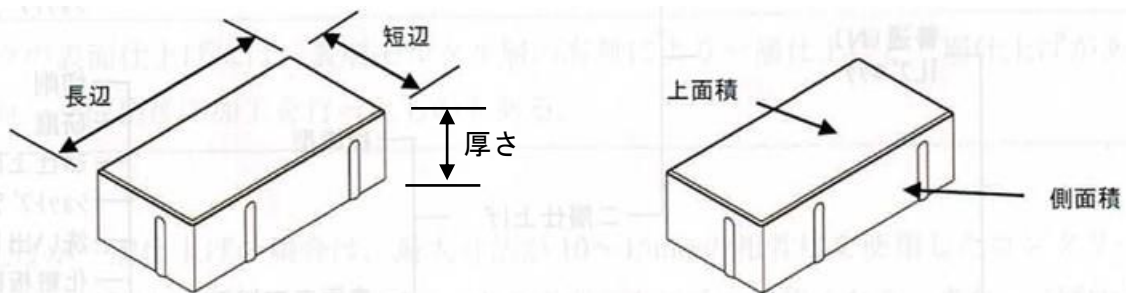


図1 IL ブロックのタイプ

表1 主な IL ブロックの形状・寸法

タイプ	厚さ (mm)	形状	寸法 ※1
セグメンタル	60	長方形	ストレート型 100×200,150×200, 150×250, 150×300, 200×300
			波形型 112.5×225,114×228,120×240
	80	正方形	ストレート型 100×100,150×150,200×200,300×300×80(厚さ) ※2
			波形型 225×225,228×228,240×240
フラッグ	60	長方形	ストレート型 300×450,300×500
		正方形	ストレート型 300×300×60(厚さ) ※2
	80	長方形	ストレート型 300×600,400×600
		正方形	ストレート型 400×400,450×450,500×500

※1 目地幅を含めたモジュール寸法で示しています。

※2 300×300は、80mm厚さはセグメンタルタイプ、60mm厚さはフラッグタイプになります。

(5)ILブロックの目地キープ

ILブロックの各側面には、隣り合うブロック間の目地幅を確保し、車両走行によるILブロックの角欠けを防止するため、目地キープといわれる突起(厚さ2~3mm)が設けられています。(図2)

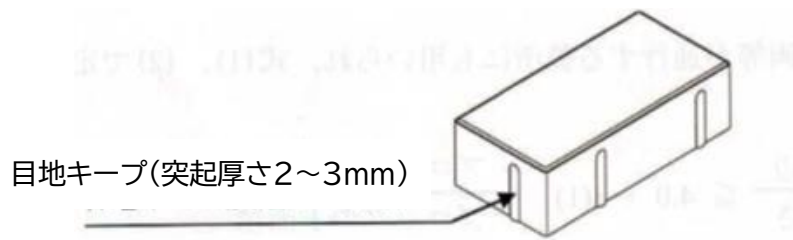


図2 目地キープ

(6)ILブロックの面取り

ILブロックの表面の端部には、角欠けを防止し、デザインを向上させる目的で面取りを設けています。(図3)

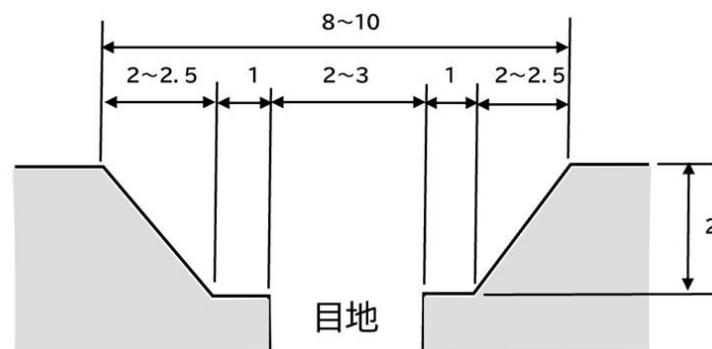


図3 ILブロックの標準的な面取り

以上